

坑内を練り歩く樽みこし



中部地方整備局が建設を進めていた国道23号蒲郡バイパス（BP）五井トンネル（仮称）の掘削工事が完了し、7日に鴻池組の主催による貫通式典が愛知県蒲郡市の現地で行われた。稲葉正吉市長など多数の地元関係者や工事関係者らが出席。同BPの東部区間初となるトンネルの無事貫通を盛大に祝った。

鏡開き



貫通側坑口部



蒲郡バイパス五井トンネルが貫通

中部整備局

式典では、現場の第一線で工事に携わった横山工業の関係者による樽みこしも入場。「ワッショイ、ワッショイ」の掛け声とともに坑内を練り歩いた。鏡開きも行われ、関係者に祝い酒が振る舞われた。古川浩鴻池組常務執行役員名古屋支店長は「五井山は予想をはるかに上回る難しい地質であり、会社としても経験と技術を、現場力を備えた人材を配置した。無事、貫通を迎えたが工事はまだ7合目。品質、安全、環境に配慮し無事故、無災害で完成させたい」と力強く語った。現場で指揮を執る酒井康至所長は「工事



酒井所長

難工事を克服 施工は鴻池組

約9・1キロ（蒲郡IC～豊川当為IC）が名豊道路で唯一の未開通区間となっている。東部区間には五井トンネル（延長299メートル）、国坂トンネル（延長675メートル）、豊沢トンネル（延長539メートル）がある。五井トンネルは15年2月に着工。同年10月からNATMで掘削を開始したが土かぶりがかた、岩質ももろく工事が難航した。このため、補助工法として径約100ミリの鋼管を切羽前方地山に打設し、注入剤でトンネル周辺地山を補強・改良する長尺鋼管フォアパイリング（AGF）工法を採用。安全、確実に作業を進めた結果、6月29日に貫通を迎えることができた。今後は12月中の完成へ仕上げなどが進められる。

品質、安全、環境に配慮し12月完成へ